

連携だより

令和5年

1 月号

令和5年1月1日発行

独立行政法人 国立病院機構 
呉医療センター・中国がんセンター
地域医療連携室

〒737-0023 広島県呉市青山町3-1
TEL 0823-22-3816
FAX 0823-32-3070

URL <https://kure.hosp.go.jp>

理念

思いやりのあるやさしい誠実な医療を提供します

1月の花 スイセン



今月号のトピックス

- 地域医療連携部長挨拶 高野弘嗣 1
- 泌尿器科紹介 2
- 学会参加報告 脳神経内科 倉重毅志 3
- 開業医紹介 4

地域医療連携部長挨拶



地域医療連携部長
高野 弘嗣

新年あけましておめでとうございます。旧年中は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。当院でも、3年目に突入したコロナ禍による面会禁止により、入院患者さん及びご家族の皆様には不自由をお掛けしました。地域連携については、現在は行動制限のない状況になったことを踏まえ、地域の医療機関に直接ご挨拶に何うことができました。また、「地域から選ばれる地域連携室」を目指して取り組んでいるところですが、昨年引き続き返書管理に重点を置いてまいりました。この取り組みにより救急外来からの入院患者の未返書率はほぼ0%を継続することができております。一方、1昨年は一般外来からの入院患者の未返書率は43%と高かったのですが、昨年は各科医師の協力により、平均で2%前後まで減少しております。しかしながら、個々の医療機関においては返書が届かない場合もあるかと思いますので、遠慮なく連携室に連絡していただければと存じます。入退院支援センターも毎月100件程度の支援を実施しており、入院前から退院困難となっている要因をピックアップし、病棟と連携し、退院支援にも力を入れております。まだまだ、至らない点が多々ありますが、今後も地域医療機関の皆様との連携を密にしていきたいと考えており、先生方の忌憚のないご意見を願いたします。本年も変わらぬお引き立てのほどよろしく願いいたすと共に、皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

泌尿器科紹介

スタッフ：繁田 正信、福岡 憲一郎、岩根 亨輔、野村 直史、古谷 知己

平素よりご高配を賜りありがとうございます。

泌尿器科は5名の医師が所属し、そのうち泌尿器科指導医が2名、専門医が2名います。診療内容は、悪性腫瘍（腎・尿管・膀胱・前立腺・精巣）をはじめ、排尿障害（過活動膀胱、前立腺肥大症、神経因性膀胱、骨盤臓器脱）、尿路感染症も取り扱っております。



7A病棟スタッフ



繁田副院長 古谷医師 大塚看護師長 野村医師 岩根医師 福岡医師



上田医師 繁田副院長 福岡医師 野村医師
岩根医師 古谷医師

悪性腫瘍（腎・尿管・膀胱・前立腺・精巣）

当科では、泌尿器科悪性腫瘍に対する手術のほとんどを腹腔鏡下に行っております。腹腔鏡手術は傷が小さく、低侵襲のため患者さんのQOLも高いです。また拡大視野のためより繊細な手術が可能です。

腎癌：当科では可能な限り腎の全摘を避け、腎部分切除を行い、腎機能の損失が最小限になるよう努めています。他院では腎摘されてしまうような大きな腎癌も積極的に部分切除しています。

腎盂や尿管がん：腎と尿管の全摘が標準治療ですが、リンパ節郭清を同時に行うかどうかのエビデンスはまだ確立されていません。そこで当科では秋田大学と連携し、前向き臨床試験に参加し、腹腔鏡下リンパ節郭清術のエビデンスを構築しています。

膀胱がん：早期がんの場合にはTUR-BTという経尿道的に腫瘍を切除することで腫瘍の根治を目指しますが、進行がんの場合には、腹腔鏡下に膀胱全摘を行っています。膀胱摘除後は尿路変向が必要となります。最近では、これまで行ってきた回腸導管法に加え、回腸新膀胱造設術も行っています。これは回腸を球形に形成し尿道に再吻合する術式なので、回腸導管法と異なりストーマ造設する必要がなく、審美的に優れています。

前立腺がん：開業医の先生方のPSAスクリーニングのおかげで、早期がんで見つかる患者さんが増えています。患者さんには手術を積極的に勧めています。一般的に前立腺全摘術後は尿失禁が起こりやすくなります。そこで当科では可能な限り尿禁制を司る陰部神経の温存を行っており、術後尿漏れパッドをしなくてもいいよう術式の工夫を行っています。

精巣がん：精巣がんは進行が早いため、診断後早急に手術を行っています。必要な症例では後腹膜リンパ節郭清を行います。これも低侵襲な腹腔鏡手術で行っています。

排尿障害 (過活動膀胱、前立腺肥大症、神経因性膀胱、骨盤臓器脱)

日頃より、頻尿や尿失禁、排尿困難などさまざまな排尿トラブルを抱える患者さんをご紹介頂きありがとうございます。当科でしっかりと精査した後、投薬を開始させて頂いております。投薬により症状が安定した際には、かかりつけ医からの処方をお願いしておりますので、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。投薬でも効果不十分の症例では、可能であれば手術により症状改善を目指します。とくに膀胱瘤などの骨盤臓器脱に対しては令和2年より腹腔鏡下仙骨脛固定術を開始し、これまでに20例施行しました。術後はすぐに自覚症状の改善を実感できるため、多くの患者さんにご満足頂いております。

尿路感染症

尿路感染症は、その感染巣別に急性膀胱炎、前立腺炎、精巣上体炎、腎盂腎炎などに分類されますが、いずれの疾患も治療の主体は抗菌薬の投与です。ただ、尿管結石に合併した腎盂腎炎に関しては、尿管ステントを即時に留置したほうがよいケースが多いため、診断し次第当科にご相談頂けますと幸いです。当科では尿管結石の治療（ESWL, TUL）は行ってはいないため、感染症が改善後に他院へ結石治療をお願いしております。

学会参加報告 コロナ時代の国際学会

脳神経内科 倉重 毅志

この度、2022年10月11～16日にハリファックス（カナダ、ノバスコシア州）で開催された第27回世界筋学会年次集会（27th International Hybrid Congress of the World Muscle Society; WMS2022）に参加してきました。ノバスコシアは『新たなるスコットランド人の国』という意味で、開催地ハリファックスはかつての大英帝国の北米における最重要拠点で、カナダへの移民が最初に上陸した地である由緒正しき港町です。街中には移民を記念する像（写真①）や大英帝国を支えた海運会社キュナードの創業者像（写真②）などがあり、現在もクルーズ客船の根拠地になっています（写真③）。

世界筋学会は筋疾患・末梢神経疾患・運動ニューロン病を集中的に取り扱う国際学会で、世界中から最新の研究成果が発表されます。COVID-19の感染拡大により過去2年間はvirtual



（写真①）移民の像



(写真②) キュナード像

開催でしたが、2022年から現地開催とvirtualを兼ねたhybrid開催が行われることになりました。当院からも毎年、研究発表を行っていますが、今年は、当院で検討してきた『筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者の骨格筋でのTDP-43発現』に関する研究成果を口演してきました（写真④）。ALSは神経難病の代表格のような病気ですが、高齢化にともない増加することが分かっており、呉医療圏においても増加傾向にあります。ALSの治療のためには早期診断・早期治療が重要であり、ALSの早期診断のための研究は世界中で取り上げられているテーマです。私たちはALS患者さんたちの骨格筋の中にある末梢神経にはALSで重要な役割を果たしているタンパク質であるTDP-43が、これまでの方法ではALSと診断できない超早期から出現することを見いだしていますが（Kurashige T, et al. JAMA Neurology 2022）、多くの研究者から

質問を受け、後日、学会のハイライトとして取り上げられました。また、この学会は世界中の専門家の懇親も目的としており、私も他国の参加者と懇親を深めました（写真⑤）。

脳神経内科では、呉医療圏だけでなく、中国・四国地方をはじめとした西日本各地から数多くの神経筋疾患の患者さんをご紹介いただき、世界最先端の診断・治療を提供できるように日々努力しています。多くの患者さんを呉地区の開業医の先生方からご紹介いただいております。このような発表ができるのも皆様のご協力のおかげです。今後とも呉医療センター脳神経内科をよろしくお願いいたします。



(写真③) ウォーターフロント地区のクルーズ客船



(写真④) 口演



(写真⑤) excursion

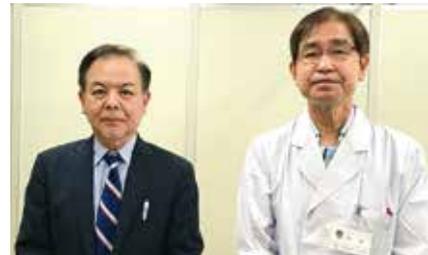
開業医訪問 開業医の先生方へご挨拶に伺っております



• こころのクリニックこかげ •



• しんこころのクリニック •



• 森皮ふ科アレルギー科 •



● 菅田医院「川尻」 ●



● さゆりクリニック ●



● 日下医院 ●



● 医療法人社団 スマイル
博愛クリニック ●



● こばやし整形外科クリニック ●



● 康成病院 ●



● 呉記念病院 ●



● 国立病院機構 賀茂精神医療センター ●



● 新開医院 ●



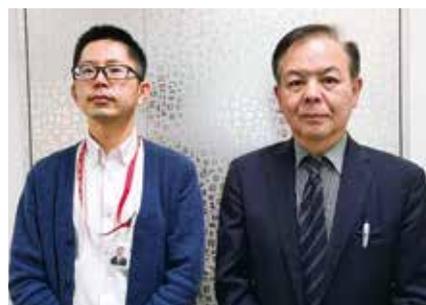
● 本田内科クリニック ●



● 国立病院機構 東広島医療センター ●



● 井野口病院 ●



● 東広島記念病院 ●



• 西条中央病院 •



• 本永病院 •



• 八本松病院 •

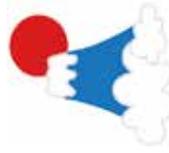


救急外来へのご紹介について

救急車で搬送する患者さんのご紹介は、救命救急センター医師が症状等を直接お伺いさせていただきますので、「救急外来受付」まで電話でご連絡いただきますようお願い申し上げます。

平日 昼間	8 : 30 ~ 17 : 15	☎0823-22-3111
土・日および夜間	17 : 15 ~ 8 : 30	☎0823-23-1020

1月の時間外 研修会／勉強会



〔連絡先〕

独立行政法人国立病院機構 呉医療センター・中国がんセンター 管理課 庶務係（教育企画部）
広島県呉市青山町3番1号 / TEL:0823-22-3111 / 本メール: https://kure.hosp.go.jp/



研修会名	日時	場所	講師 ※敬称略	担当部署	院外参加	対象職種
院内BLSコース	1月6日 (金) 17:30～18:30	技術研修センター	院内BLSチーム	院内BLSチーム	院内向け	全職種
第7回 TCSEA勉強会 「多職種でクリニカルパスを活用しよう」 「大腿骨近位部骨折における骨粗鬆症の評価、治療」	1月17日 (火) 18:00～19:00	11F大会議室	呉医療センター 整形外科科長 山崎 琢磨 地域医療連携室看護師長 竹中 恵子 整形外科医師 岡田 芳樹	栄養管理室	院内向け	全職種
【法定研修】令和4年度第2回 医療安全講習会 ①麻薬管理について ②VR体験を通じ、転倒転落防止について多職種で考える	1月23日 (月) 18:00～	地域研修センター 1・2	呉医療センター 薬剤師長 藤田 秀樹	リスク マネージメント部会	院内向け	全職種
医療機器安全使用に関する研修会 血液浄化装置 TR55X-II 「CHDFについて」	1月24日 (火) 17:30～18:30	11Fカンファレンスルーム	呉医療センター ME管理室 小田 洋介	ME管理室	院内向け	全職種
地域医療研修センター定期講演会 「がん疼痛治療」一鎮痛薬を使いこなそうー ※コロナ感染拡大状況に伴い中止する場合があります。 中止時にご連絡希望の方は、地域医療連携室までお問い合わせをお願いたします。 講演会の事前申込は不要です。	2月15日 (水) 19:00～20:00	地域研修センター 1・2	呉医療センター 緩和ケアセンター部長 砂田 祥司	管理課	○	全職種



自己研鑽で専門性を高めましょう！

〒737-0023 広島県呉市青山町3-1
独立行政法人 国立病院機構
呉医療センター・中国がんセンター

地域医療連携室

高野 弘嗣 河野 博孝
竹中 恵子 折本 陽一
片山 千雪

TEL: (0823) 22-3816